

知床の窓から見えるもの

2020年10月26日（月曜日）

こんにちは。北海道看護協会からご紹介いただき、『応援ナース』ということで6ヶ月間、診療所でお世話になっています。任期もあとわずかになり、羅臼での様々な思い出を振り返り、ブログを書かせて頂きます。何について…。ありすぎて書ききれません。

私が初めて羅臼に来たのは5月。コロナが世界中を震撼させている最中でした。大阪からやってくる私を歓迎して下さったことを感謝しています。診療所や町の皆様は温かかったです。「関西の人？」と穏やかに優しく声をかけてくださいました。応援ナースとは名ばかりで、町の皆様のお役に立てたとは言えず、申し訳なく思っています。でも、私は羅臼に来て感動したことがたくさんありました。

中標津空港に降り立ち（寒かったです）、羅臼の町に入り、海の向こうに見えるのが国後島だとお聞きして、その大きさと近さに驚きました。泳いで渡れる！とは思いませんがとても近いという印象をもちました。そして住居に着くと羅臼岳がいつも見えるんだとまた感動しました。その後、春から夏はよく霧や雲が発生すると知り、あるはずの国後島も羅臼岳もないように真っ白になっている光景をよく目にするようになりました。それゆえに、診療所で手洗いしている時に、目の前に羅臼岳が見えると「今日は羅臼岳が見えます。」「診療所に来る時に国後島も見えました。」などスタッフの皆さんに報告していたものです。春には白かった山頂が緑になっていく。国後島の土の部分が見えたりしました。見えるとただ嬉しいのです。

見えると嬉しいのは鹿やキタキツネも同じなんです。「いつもここら辺歩いてるよ。」とお聞きします。毎日、川沿いを歩いてくるのですが見たことがありません。「ここら辺におらへんやん！(>o<)」でした。（笑）

「鹿を見かけたらご一報ください。」とお願いしたお陰で、診療所の前の交差点で立ち尽くす鹿や、診療所の駐車場をポクポク歩く鹿や、ターッと走り去るキタキツネを見ました。やったー！ありがとうございます。「まだ、見たい？」と聞かれますが「はい。まだ見たいです。」ご一報ください。熊は見たいとは思っていません。あしからず。

シャチを見れたこと（ラッキー！）、昆布のお仕事（こんなに大変なんだから羅臼昆布は高くてもいい）、熊の湯（少しは熱くても入れるようになりました）、知床峠の星空や紅葉（優しい色の紅葉が美しい！）、昆布・ウニ・ホタテの稚貝・トキシラズ・イクラ・鮭・イカ etc...美味しいものもたくさんいただきました。（ごちそうさまでした）大阪では手に入らない物や高価な物です。貴重でした。

羅臼の良さをまだまだ書きたいのですが、ほんとにキリがありません。でも私が羅臼を好きになったことは伝わったのではないのでしょうか？祖父母も大阪で、私も大阪以外の土地で暮らしたことはなかったので羅臼をふるさとだと思ってまた、戻って来たいなあと思います。鮭のように3年後？トキシラズのように不定期で？羅臼はそんな素敵なところでした。ほんとうにありがとうございました。

